

京都市レジリエンス戦略の推進に向けて



レジリエント・シティ京都市統括監
藤田 裕之

hrfujita@city.kyoto.jp

「レジリエンス (Resilience)」とは何か

- 物質や物体が跳ね返って、もともとの形になる能力, 弾性
- 困難にも折れることなく, 素早く回復する能力, 強靱性
- 複雑かつ変化する環境下での適応力
- 中断や阻害を引き起こすリスクを運用管理する組織の力

雨降って、地固まる！
災い転じて、福となす！
Build Back Better !

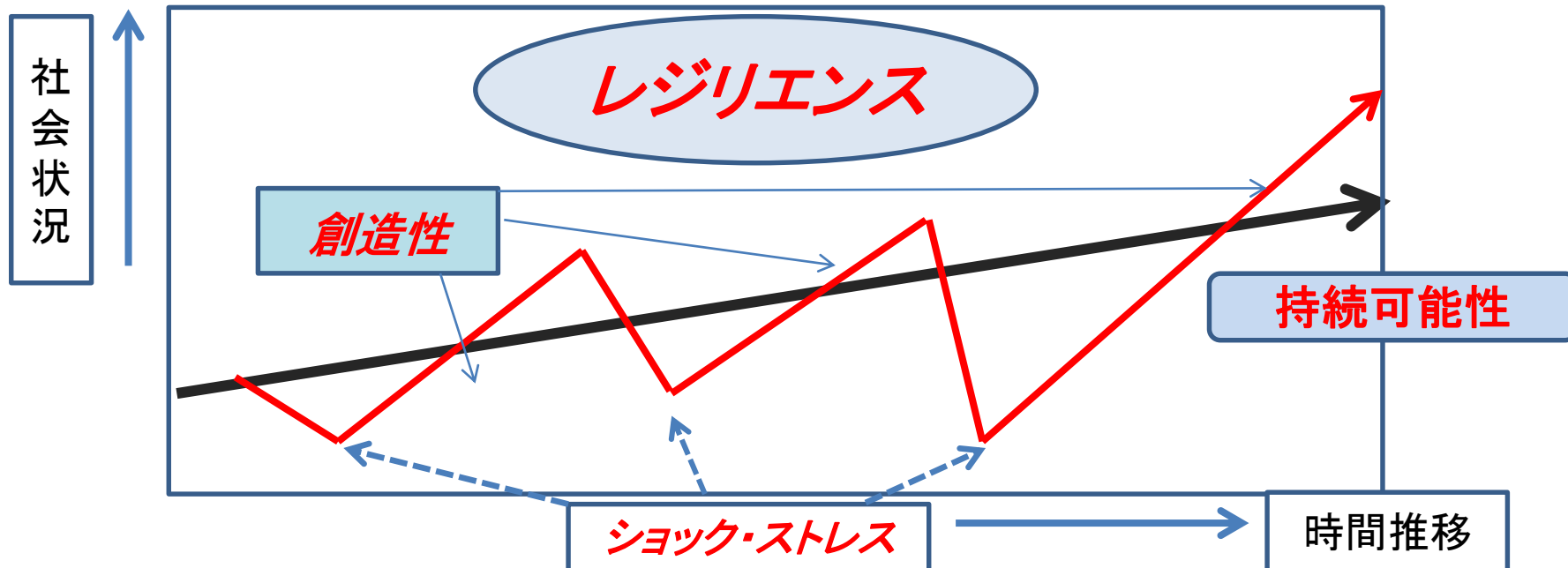
バネの反発

ラグビーボールの
跳ね返り

ダメージを受ける前以上に、より良く立ち直る姿

「持続可能性」と「レジリエンス」 (Sustainability) (Resilience)

- あらゆる事象を「想定外」とせず, いかなるダメージに対しても, 粘り強さをバネに, 現状以上の改善を可能とする仕組みが「レジリエンス」 ⇒ *雨降って, 地固まる
災い転じて, 福となす*
- 「持続可能性」と「創造性」の融合



レジリエンスの対象

＜あらゆる「危機管理」に関わることから＞

私たちが今後、直面する、持続可能性を脅かす危機とは何か？
それらの危機を引き起こす原因・主体者は何か？

突然襲ってくる 外的ショック

大規模地震，河川の氾濫，テロ攻撃，集団感染など

じわじわと忍び寄る 内的ストレス

気候変動，環境汚染，人口減少（急増）・少子高齢化，地域コミュニティの希薄化，貧困・経済格差，犯罪の増加，失業・非正規雇用，など

＜決して災害に特化した概念ではない！＞

～SDGsとも共通のテーマ～

防災・減災とレジリエンス

自然災害においては、
想定外の事態は必ず起こる

環境への
配慮
＜SDGs＞

人間は、自然や
地球を支配する
存在ではない！

想定外
を
排除

自然を支配する「防災」概念からの脱却
災害による被害の縮減・未然防止＝「減災」へ！

都市レジリエンスの構成要素

頑強性(Robust)

余剰性(Redundant)

適応力(Adaptive)
省察力(Reflective)

柔軟性(Flexible)

統合力(Integrated)

包摂性(Inclusive)

臨機応変力(Resourceful)

平成31年度(令和元年度) 京都市予算編成方針から (1) 予算の基本姿勢

自然災害, 人口減少, 経済・子育て・地域コミュニティなど, あらゆる現場での担い手不足など, 都市を取り巻く様々な危機が顕在化する中, 「SDGs」の達成と京都が培ってきた「レジリエンス」を, 本市行政のあらゆる分野を横断する都市経営の理念として位置づけ「誰一人取り残さない, 持続可能なまちづくり」を推進する。

その上で, とりわけ, 京都ならではの「文化」を基軸にあらゆる政策分野を融合した施策の展開を図る。

京都市レジリエンス戦略

～しなやかに強く、
持続可能な魅力あふれる京都のために～

しなやかに強く
レジリエンス

持続可能な
SDGs

魅力あふれる
創生総合戦略

「レジリエンス」とは
一般的に、様々な危機からの「回復力、復元力、しなやかな強さ」を意味するとともに、ダメージを受けても粘り強くしななって元に戻りながら、以前よりもより良く立ち直る状態を表現しています。
そこで、あらゆる危機を乗り越え、将来にわたって人々がいきいきと暮らせる、魅力と活気に満ちたまち（＝レジリエント・シティ）を目指して、レジリエンスの理念を政策に反映し、実行していくための取組指針として「京都市レジリエンス戦略」を、2019年3月18日に策定しました。

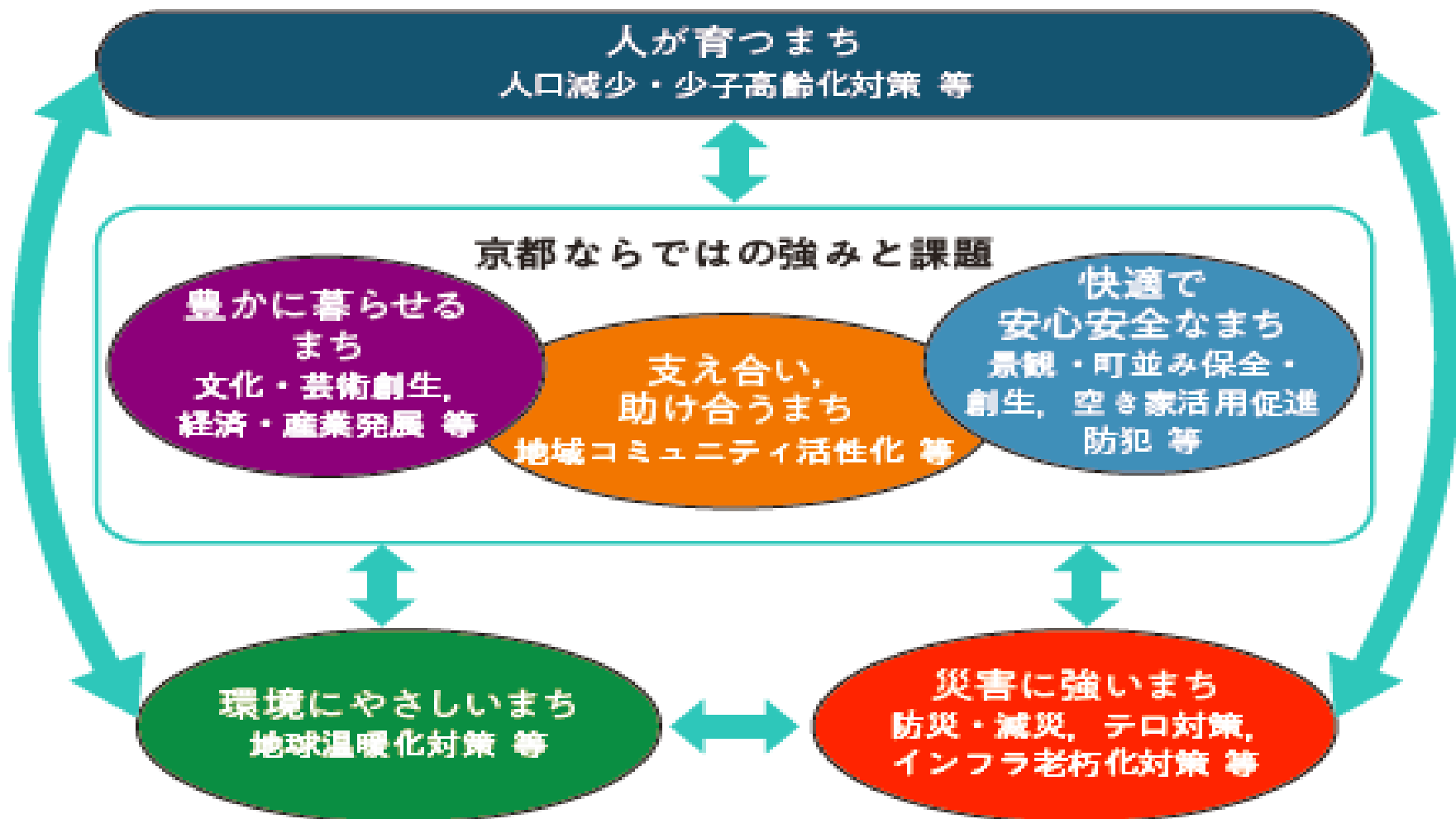


“あらゆる危機を乗り越え、20年後、50年後も、京都が京都であり続ける”

相互に密接に関連するレジリエント・シティの課題

～20年後, 50年後の社会状況の変化を先取りするとともに,
それぞれの課題の隙間を埋め, 相乗効果に転換する作業～

6つの重点的取組分野の関係図



京都市におけるレジリエンスの課題

1 自然災害等

特に危惧される自然災害として、花折断層を震源とする直下型地震や南海トラフ地震の影響及び豪雨等による土砂災害・風水害等が想定されます。平成30年(2018年)には、大阪北部を震源とする地震(6月)により、市内で震度5強を観測したほか、7月豪雨や、台風21号など、4度にわたる台風の襲来により、被害が発生しました。

◆平成30年(2018年)台風21号による被害

戦後最大を記録する暴風による影響で、7千軒を超える家屋被害(平成30年(2018年)12月末時点)や、最大約9万軒に及ぶ停電が最長で17日間発生するなど、多くの被害が発生しました。



2 人口減少

少子高齢化の影響等により、平成 17 年（2005 年）からは、出生数を死亡数が上回る自然減が継続、拡大傾向にあります。平成 23 年（2011 年）以降は、転入数が転出数を上回る転入超過が続いており、人口減少に一定の歯止めがかかっていますが、自然減をカバーできず、今後も中長期的に人口減少傾向は続くと思込まれます。

【自然動態（出生数と死亡数の差）】

平成 17 年 525 人減

⇒ 28 年 2,807 人減、29 年 3,905 人減、

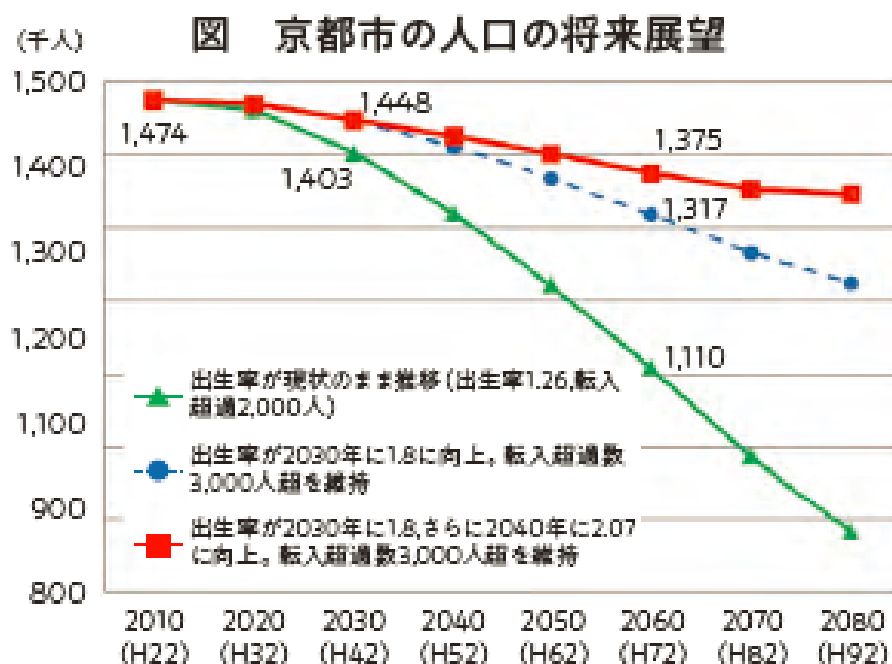
30 年 4,697 人減

【社会動態（転入数と転出数の差）】

平成 23 年 1,071 人増

⇒ 28 年 3,021 人増、29 年 2,022 人増、

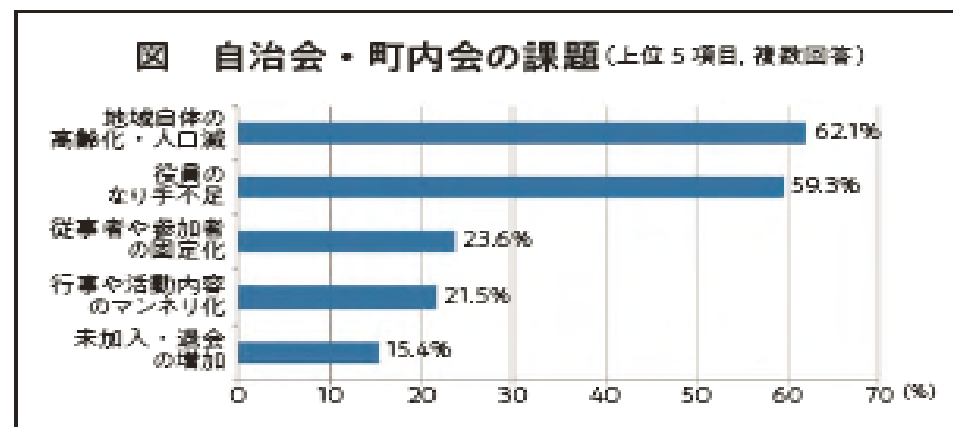
30 年 2,511 人増



資料：「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略

3 地域コミュニティを取り巻く課題

人口減少や少子高齢化の影響による担い手不足は、自治会・町内会に限らず、その他の地域組織にも影響し、防災や防犯、清掃・美化活動、高齢者の見守り等の福祉活動など、様々な取組の存続を危うくするものです。



資料:平成24年(2012年)度「自治会・町内会アンケート」京都市

4 文化の継承や活用に関する課題

価値観の多様化に伴う生活様式の変化や地域社会の希薄化等により、地域に根差した暮らしの文化の継承が難しくなっています。

5 京都経済の活性化に向けた課題

市内企業においては、人口減少社会の進展も相まって業種・地域を問わず人手不足が深刻化しており、特に市内事業所の99%を占める中小企業では、経営者の高齢化と後継者不在など、担い手不足の深刻度が増しています。

6 空き家など住環境の課題

空き家の増加は、防災、防犯、生活環境、景観保全、地域コミュニティの活力に悪影響を生じさせるものであり、地域の特性を踏まえた空き家対策の取組により、空き家の発生の予防、活用・流通の促進等を図るとともに、空き家問題を「自分ごと」として受け止めていただくことも必要です。

7 景観の保全・継承に関する課題

京都の町並み景観と生活文化の基盤である京町家は、年間平均で1.7%減失しており（平成28年（2016年）調査）、「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」（平成29年（2017年）11月制定）に基づき、更なる保全・継承に取り組む必要があります。

8 環境共生や脱炭素社会に向けた課題

環境負荷の低減はもとより、本市唯一の最終処分場を長く使用していくため、更なるごみ減量を進める必要があります。また、全ての生命が存続する基盤であり、安全で豊かな暮らし、文化・祭り等を支えてきた生物多様性の保全が危ぶまれています。さらに、東日本大震災以降、電気のCO₂排出係数の悪化により、温室効果ガス排出量の削減率が小幅にとどまっています。

① 少子化対策の更なる推進など、人口減少社会に挑戦する
取組の充実・強化

② 人生100年時代のレジリエントな生き方や価値観の創造
～市民一人一人のレジリエンスの推進

③ 地域×大学・学生×事業者等
の力の融合による、地域力の
更なる強化

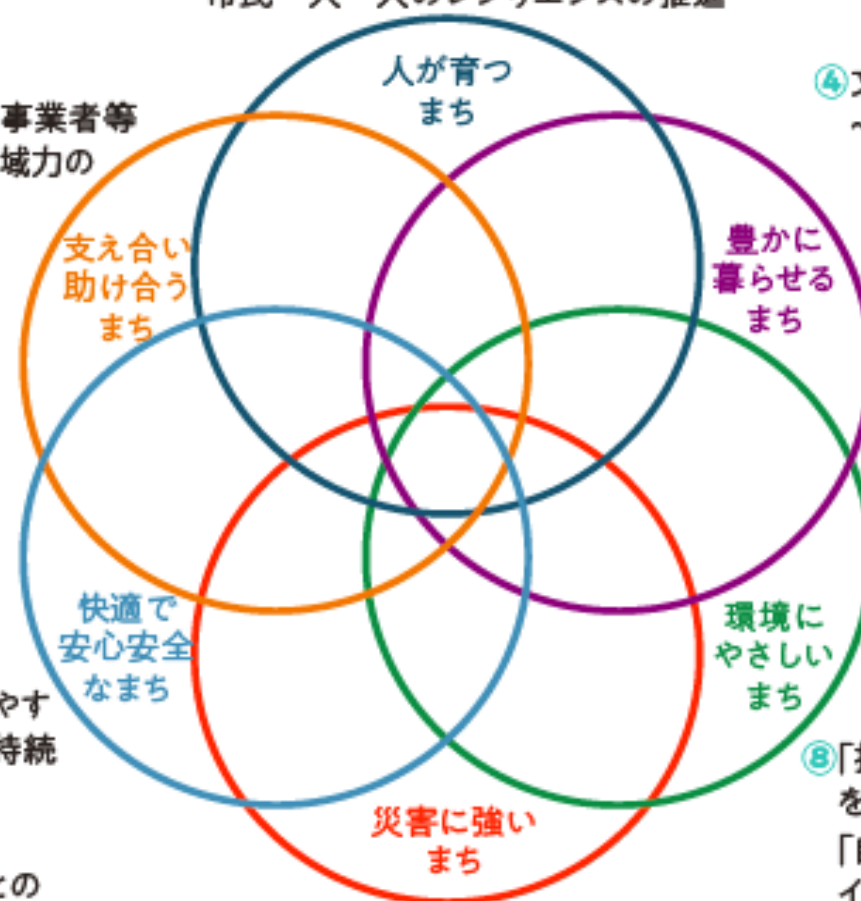
④ 文化によるレジリエンス
～世界文化自由都市・京都
ならではのレジリエンスの
推進

⑤ 地域と共に未来を切り拓
く、危機に強い持続可能
な京都経済の確立

⑥ 将来にわたって暮らしやす
く、魅力と活力のある持続
可能な都市の構築

⑦ 市民、京都府警察等との
連携強化による、安心安全
なまちづくりの更なる推進

⑨ 地震、豪雨、台風など近時相次ぐ自然災害
等を踏まえた防災・減災対策や体制の強化、
及び“自分ごと、みんなごとの災害対応”の
促進等



レジリエント・シティ実現のための手段 ～行政として政策を点検・強化するための視点～

政策の融合・・・縦割り行政の徹底的排除

市民等との協働・・・幅広い市民との行動の共有

イノベーション・・・前例主義の打破，変革への挑戦

「想定外」の克服・・・危機に際しての柔軟な対応

ピンチをチャンスに・・・発想の転換，楽観主義

～市民生活におけるレジリエンスの定着～

理念の共有・・・身近な生活でのレジリエンス

地域の絆・・・助け合い、支え合いの生活文化

多様な団体間の連携・・・あらゆるソーシャル・キャピタル

ライフスタイル・・・暮らしの美学、生き方の哲学

担い手の育成・・・次世代育成と生涯学習

SDGsとの緊密な関係

持続可能な開発目標

2015年
国連で採択
17の目標
169の達成
基準

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発の3つの側面

- 持続可能な開発は、将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足する開発と定義
- 持続可能な開発を達成するためには、**経済成長**、**社会的包摂**、**環境保護**という3つの主要素を調和させることが不可欠



SDGsの推進における留意点

新たな縦割りを作らない

～17本の柱でできた樽に水を溜める作業～
それぞれの柱(目標)に隙間を作らず、融合を図る



あらゆる危機や課題に対し、
臨機応変に対応できる柔軟性や創造性が不可欠＝
レジリエンスの構築とも連動

SDGsとレジリエンスの融合こそ京都の強み

～ライフスタイル・施策・組織・運動の総点検を～

～京都が京都であり続けるために～
レジリエンスの理念を踏まえたSDGsの推進

世界文化自由都市宣言(1978)

- ・京都市基本構想(2000～2025)
- ・京都市基本計画(2011～2020)

2019年3月

「はばたけ未来へ！京プラン」

＜まち・ひと・しごと・こころ総合戦略(2015～2019)＞

レジリエンス戦略(2019～2040)策定

京都ならではの**SDGs**推進



次期京都市基本計画・各区基本計画(2020～)
等への理念の反映